

会 議 録

◇詳細－企画調整グループ 電話03-4566-2511

附属機関又は 会議体の名称		令和5年度 第2回総合教育会議
事務局(担当課)		政策経営部企画課
開催日時		令和6年1月23日(火) 13時00分～14時05分
開催場所		教育委員会室(本庁舎8階)
案件		1. 豊島区教育大綱の策定について
公開の可否	会議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委員	高際区長、金子教育長、樋口教育長職務代理者、酒井委員、村瀬委員、大澤委員
	事務局	教育部長、庶務課長、教育施策推進担当課長、学務課長、放課後対策課長、学校施設課長、指導課長、教育センター所長、企画課担当、庶務課担当

○企画課長

それではお揃いですので、これより令和 5 年度第 2 回豊島区総合教育会議を始めさせていただきます。なお、本日傍聴希望者がお二人いらっしゃいます。傍聴いただいてよろしいでしょうか。

<一同異議なし>

○企画課長

傍聴の許可が下りましたので、入室いただきます。

それでは、議事進行につきましては会長であります高際区長お願いいたします。

○高際区長

お忙しい中、ご出席を賜りましてありがとうございます。

先般の第 1 回総合教育会議におきましては、教育委員の皆様と改めて教育大綱と総合教育会議について、確認と意見交換をさせていただいたところがございます。豊島区においては、従前から教育ビジョンをもって教育大綱にかえるという形をとっておりましたが、新体制になったということを含め、こういう子どもたちに育ててほしい、そのためにこういうことを目指したいという区の考えをより明確にする観点から、新たに豊島区の教育大綱を作りたいとご説明申し上げ、皆様にご賛同いただきました。

そして今日は、検討するにあたり、私の思いやこういうことを目指して検討していきたいというイメージ案をお示しし、皆様からご意見をいただきたいと思っております。本来であれば、しっかりと練ったものをご提案することが筋ですけれども、前段階として、このような観点を検討すべきではないかというところから一緒に考えていきたいという思いがあります。粗々で思いを書き連ねたようなものですが、お示しさせていただきます。

ここで、前回の第 1 回から本日までの報告をさせていただきます。年末から年明けにかけて「未来としまミーティング」というタウンミーティングを 2 回実施しました。子どもの声を聞きたいと思い子どもレターを開始し、その後区民の皆様の声を次なる事業に繋げたいと思い区民提案制度を開始しました。そして、もう一つやりたかったことがこのタウンミーティングです。最初は教育でやりたいと決めておりましたので、教育をテーマに 2 回実施し、今月末にもう 1 回実施します。保護者の皆様や、地域の皆様、子どもたちを見守ってくださっている方々などのご意見を直接伺い、教育大綱に大いに反映をしていきたいと思っております。

また、着々と教育ビジョンも検討が進んでおります。そして、豊島区基本構想・基本計画も1年前倒して来年度末に策定します。これらと方向性の整合が取れるよう、大きな意味で視野に入れながら、検討を進めていきたいと思っています。

本日は「未来としまミーティング」で出たご意見なども報告させていただきます。タウンミーティングや子どもレターなどでもご意見は伺っていますが、子ども、保護者、教員、地域の皆様に改めて意識調査をしたいと考えています。例えば、子どもたちや保護者が何に困っているのか、何を求めているのかということを知りたいので、そのような観点で皆様のお声が取れるやり取りをしたいと思っています。本日はその点についてもご意見をいただければと思っています。

冒頭のご説明、ご挨拶が長くなりましたが、最初にこれまで2回実施した「未来としまミーティング」でどのようなご意見が出たかについて報告いたします。

○後閑教育施策推進担当課長

- ・「資料1「未来としまミーティング」の実施報告について」説明

○高際区長

2回ご参加いただいた村瀬委員いかがでしょうか。

○村瀬委員

1回目と2回目の雰囲気は全く異なり、参加された方が違ったということもあり、さらに広い視点から意見が聞けたのでとても良かったです。

○高際区長

ありがとうございます。

続いて、樋口委員お願いできますでしょうか。

○樋口委員

このように、区民と区長とが膝を交えて話す機会があるということは、区民の皆様にとって大変ありがたいことだと思います。

全体的に感じていることは、やはり学校のPRが足りないということです。例えば、各学校で力を入れていることや、授業でこんなことをやっているといったことは、学校だよりなどでPRをしているのですが、それを目にする機会が保護者の方はおありかもしれませんが、地域の方はなかなかありません。今はホームページに載せてくださっているので、学校だよりを見ることはできますが、学校の良さや、様々な教育活動をこういう意図でやっているということが十分にご理解いただけてない部分があると感じています。

また、地域を題材とした「総合的な学習」については、中学3年生まで発達段階に応じて、探究的な学習をやっているにも関わらず、中学校ではやってないかのように捉えられています。

学校のPRについて様々な角度から検討し、アナログですが町内の回覧板を活用して行うなど、新たな発想が必要ではないかということが一番に感じました。

○高際区長

ありがとうございます。実は1回目のときに、樋口委員のご意見と近いことをおっしゃっていた小学生の保護者の方がいました。どこの中学校に行くかを選択する時に、それぞれの学校の強みや良さ、このようなことをやっているといった情報がほしいので、積極的にPRしてほしいというご意見がありました。

それでは、大澤委員お気づきの点があればお願いします。

○大澤委員

意見としては、宿題は学校で終わらせろというのは気になるところで、それは宿題という名前じゃないなと思いました。

○高際区長

お習字とか絵の具は、学校で洗って返してほしいという意見もありました。筆を洗うところまでを含めて教育であるといったご意見でした。

では続いて、酒井委員お願いします。

○酒井委員

このような形で区民の意見を聞いてくださって、ありがとうございます。

例えば、不登校のことは、保護者会でもかなり取り上げられていて、区全体としても数が増えていますけれども、要望としても多く出ていると感じました。

また、障害をお持ちのお子さんをお持ちの方が、やはり非常にご関心が高くいらしているのを拝見して感じました。

色々な声を吸い取って施策に反映していただければ大変ありがたいです。

○高際区長

ありがとうございました。続いて、教育長からどうぞ。

○金子教育長

樋口委員もおっしゃっていましたが、先日東京都教育委員会の方と話す機会があり、東京都の方もやはり学校のことが全然知られていないということをお

っしゃっていました。当然知っているだろうという前提で自分たちが説明しても、それは違うということを感じているとのことでした。

「未来としまミーティング」では、「コミュニティ・スクールの導入が広がれば、もっと自分たちの意見を聞いてもらえたり、学校のことを聞いたりできる」という発言があり、「それはいいですね」という話で盛り上がりました。

○高際区長

障害をお持ちのお子さんの親御さんもいらしていたこともあり、酒井委員がおっしゃったように私も障害に関することが印象に残っています。また、ICTの関係では、学校や先生によって利用に差があることは、子どもにとって良くありません。また、忙しい先生を何とかしたいと、もっと学校と関わりたいという保護者の方がいる一方、PTA活動は遠慮したいという保護者もいました。またお気づきの点があればおっしゃってください。

では次に、新たな「豊島区教育大綱」の検討イメージ案たたき台についてです。ぜひ様々なご意見をお寄せいただきたいと思います。今私が漠然としながらもイメージしていることのご説明を先に差し上げます。

○高際区長

・「資料2『新たな「豊島区教育大綱」策定に向けての検討イメージ(案)』」説明

まず、この策定に向けての検討イメージ案の一番ベースは、かねてから申し上げておりますが、豊島区を「未来を切り拓く笑顔で元気なとしまっ子が育つまち」にしたいということです。どういうまちかということを改めて考えたときに、すべての子どもたちが、将来への希望を持ち、健やかに成長し、自分たちの力で未来を切り拓いていける、それを応援できるまちだと思います。やはり子どもたちには、自己肯定感を持ってほしいと思っています。

先日の「としま子ども会議」で子どもたちに伝えたのは、自分に自信を持って、自分の言葉で発信できる人になってほしいということです。発信するだけでなく、動けてチャレンジできる子どもに育ててほしいとも伝えました。特に豊島区は多様性に満ちているという地域特性がありますし、自分と違う価値観をしっかりと受け止められる子ども、そして地域の方に支えられて育ててほしいと考えています。そういう意味で、自分を肯定し、相手のことも肯定して大事にできる子どもが育つ環境をどう作っていけるかという観点から、区としての大綱を検討していきたいと思っています。

検討にあたり、何を大事な柱にしたいかということ、今はこの4つであると思っています。

1つ目は、教育そのものかと思えますけれども、幼児教育もしっかりと強化したいと思っています。保幼小中と連携し、途切れることなく、健やかに知徳体のバランスがとれた生きる力を培える基盤を作りたいと思っています。

2つ目は、先ほど申し上げた多様性についてです。自己肯定感を感じられる環境を作るため、引き続き子どもの声を受け止めていきます。そして個々の発達段階に応じて、個々の能力、それぞれの個性を尊重できる環境を整えていきます。いじめ・不登校・ヤングケアラー・貧困問題など、困難な課題は様々ありますが、どのような子どもも地域で支えていくという方針を示したいと思っています。

3つ目は、地域のネットワークを生かして、子どもたちが色々なことを体験できる場を作りたいと思っています。子育て家庭を見守ってくださっている方々、町会や民生委員さん、たくさんおられますけれども、大学も企業も、チーム豊島を組んでみんな子どもたちを応援したいと思っています。また、外国の方も多いのでグローバルの視点も加え、色々な地域で様々な関わりを大事にできる教育環境というものをベースの一つに置きたいと思っています。

4つ目は、学校が子どもたちにとって安心して行ける場所であってほしいと思っています。学校図書館や司書の充実等により、主体的に学習できる環境をつくり、教員もまた生き生きと働くことができるように、働き方改革や学校への支援も必要かと思えます。

検討するにあたり、キーワードレベルで恐縮ですが、皆様からご意見いただきましたたたき台として、お示しさせていただきました。委員の皆様からご意見をいただき、このたたき台を膨らましていきたいと思っております。

○樋口委員

さすが区長と思いましたが、前回、幹とベクトルの話をさせていただきましたが、柱の1点目に「切れ目のない教育」をあげてください、まさに子どもが縦に育っていく、そこを区長が見てくださろうとしている情熱を感じました。ありがとうございます。

2点目は、私もそのとおりであると思えます。自分のことを認められるからこそ自分を支えてくれる周りを認め、一緒に伸びようとするところがあると思いますので、自己肯定感という言葉を入れていただきありがとうございます。

3点目は、先ほどの話とリンクさせるならば、グローバル・国際化の基盤は、「我が国理解」だと思っています。我が国というのは今自分が生まれ育って生きている場所という意味ですが、「我が国理解」をするためには、「ふるさと理解」がなければならないですし、自分の国を知るということが非常に重要です。地域の方々を講師に招き、様々な伝統文化や地域文化のようなものを、例えば小学校だったらクラブ活動、中学校だったら部活動の文化部で行っています。先ほど

申し上げましたが、総合的な学習の時間のテーマの一つに国際理解教育があり、その中の一つの単位として、「ふるさと理解」をすすめている学校が豊島区にはたくさんあります。各学校において形は自由でも、必ずふるさと理解の単位を入れましょう、中学校にも入れましょうとするのも一つの方法ではないかと思えます。

4点目につきましては、本当にありがとうございます。子どもの学びを深めるための学校図書館に司書の方がたくさん入るといいなといつも思っていました。このように柱立てをしてくださり嬉しく思います。

○高際区長

ありがとうございます。村瀬委員いかがですか。

○村瀬委員

区長が目指す「未来を切り開く笑顔で元気なとしまっ子が育つまち」は、みんなが望んでいると思います。

しかし、実際の学校現場は教員が減らされています。「先生が不足しているから担任に入って」と言われ、多忙になっている副校長の姿を見て、教員が上を目指さなくなり、副校長不足になるという悪循環が生まれています。例えば、教員不足の学校に、人材サービスはもとより、地域の方の協力を得て、みんなで乗り切ろうというバックアップがあるといいなと思っています。人手が足りないときは、先生が1人で頑張るのではなく、地域をぐっと巻き込み、チームワークで乗り切れると良いと思っています。

○高際区長

絵に描いた餅にならない、そして、させないためには体制を強化していくことが大切ですね。ありがとうございます。

大澤委員、何かご感想等ありますか。

○大澤委員

多動症のお子さんがあるクラスがあります。補助する人がいないために、先生が走り回っています。先ほど村瀬委員がおっしゃったように、人材センターからでもいいので、1人でも補助に入ってくると助かると思います。目が増えることで、お子さんの怪我を防ぐこともできるかと思っています。

○高際区長

先生方に教育活動により注力してもらおう観点から、教育活動自体の質の向上

に支障があるのであれば、やっぱりここは組織で支えることも大事であると思いました。

ありがとうございます。では酒井委員お願いします。

○酒井委員

この4つの柱は、やはり非常に重要だと私も拝見して思っております。

1つ目に幼児期を入れていただいたのは大変ありがたいです。特に教育委員会はどうしても小学校と中学校が中心となります。なかなか教育委員会が目配りできない保育園と幼稚園について切り込み、柱としていただきありがたいです。ぜひ今後のタウンミーティングでも、小さなお子さんをお持ちの保護者の方の声を聞けると視野が広がると思いました。それから、健康で逞しく、ということは非常に大事だと思います。やはりコロナの中で子どもの運動能力の低下、体力の低下ということが非常に危惧されています。体力増進・運動能力の向上に区として力を入れていくということは、非常に大切なことですのでぜひご配慮いただければと思っています。

2つ目はもう皆様のおっしゃる通りで、本当に多様な背景を持つお子さんがいらっしゃるので、目配りをしていただき非常にありがたいです。

3つ目は、豊島区は大学が非常に多いので、大学に協力をいただく仕組みづくりが重要です。地域を課題として取り組む研究に、プロジェクトの予算をつけて取り組んでいる大学もあります。教員の評価にも、地域貢献という項目があります。豊島区にどのような地域貢献をしているかということが書けると教員も大変ありがたいので、win-winのような形ができると、大学側も非常に協力しやすいと思いました。このように大学側がうまく関われる仕組みを作っていただくとよいと思います。

4つ目は教員が生き生きと働ける環境作りというところで、支援員といいますか、地域の方でできるだけご協力していただけるような仕組みが重要になります。来年度に常駐の司書がついた学校は2校だけでしたが、常駐していただくと授業がいろんな形で広がりますので、常駐型の司書をまた増やしていただくとありがたいです。

○高際区長

ありがとうございます。ぜひ、樋口先生どうぞ。

○樋口委員

区長が目指す子どもたちの姿の、「自らの言葉で発信できる」ということが私も非常に大事だと共感しています。自分の思いを発信するという事は相手の

思いを聞かないとできないので、発信の前に「聞くこと」が大事だと思っています。自分の言葉で発信することこそ、これからのグローバル社会の中で重要になると思っていて、とても好きな言葉だなと思って見させていただきました。

○高際区長

ありがとうございます。貴重なご意見とヒントをたくさんいただきました。冒頭申し上げました通り、またお帰りになられたあとも、ご意見をお寄せいただければと思います。

タウンミーティングでも障害のことがずいぶん出ましたし、大澤委員がおっしゃる通り発達障害含めてありますし、そういう場合やはり教員への支援が必要になりますので、多様性の中に困難な課題を抱える子どもも含めている形ですが、障害を一本柱として立てても良いかなということは委員の皆様のお話を伺っていて思いました。ぜひご意見をお寄せください。

では続いて、庶務課長より、意識調査について説明します。

○高橋庶務課長

(資料3「豊島区の教育施策に係る意識調査実施について」説明)

○高際区長

冒頭申し上げたように、何をして欲しいのか、何をやりたいのか、絶対叶えて欲しいことは何かというようなことを聞きたいと思っています。最後にフリーで意見を書いていただくパターンは行政調査も必要ですが、今回は心の声が出るような形で意見をとりたいと思っています。

酒井先生、何かご意見ございますか。

○酒井委員

先ほど障害をお持ちのお子さんの話が出ましたが、障害をお持ちのお子さんを育てていらっしゃる保護者の方は今どういう思いでいらっしゃるのかといったように、ある程度対象を絞った形で調査する方が良いと思います。

○高際区長

分かりました。ありがとうございます。樋口先生お願いします。

○樋口委員

今まで取ってきたアンケートはたくさんあるので、まずは既存のデータを活用して、それでは足りないところを意見聴取するというのを再々言っていま

す。何のために調査を実施するのかということ、今回は見出しのようなものがあるので、これはこの施策について意見を聞きたいのだなということが理解できます。

区長が大綱のために声を聞きたいとおっしゃっているわけですから、私たちが今まで教育分野でとってきたアンケートとは違うような気がします。そこを明確にした方がよろしいかなと思います。

○高際区長

わかりました。村瀬委員この際何かあれば、どうぞ。

○村瀬委員

ありがとうございます。設問をシンプルにして、足りないことを教えてという方向性がすごくいいと思いました。保護者からすると、何回も同じようなアンケートを取らされているという思いがあります。就労や年収をまた聞くのかという感じです。目的があればいいのですが、保護者は回答するのが本当に大変です。

ただ、学校に対して、困っていること、要望したいこと、区にしてほしいことは保護者ごとにしっかりと考えがあるはずですが、アンケートを取って自由に書かせると、集計する方は大変ですが、保護者としてはシンプルに何をやってほしいかと聞かれた方が、いろいろ思い浮かぶのではないかと思います。

○高際区長

声が出しやすいような聞き方をということですね。ありがとうございます。皆様のご意見を踏まえ、しっかりと声を聞けるようにしたいと思います。

○樋口委員

マイナスなことを聞くのではなくて、良いところをたくさん聞いてほしいと思っています。自分はこういう力を伸ばしていきたいとか、そういうのを聞いていただくと大綱の方向性に反映できるのではないかと思います。

○高際区長

ありがとうございます。ポジティブにやらせていただきたいと思います。本日はいろいろご意見をいただきましてありがとうございました。

教育ビジョンとの連携もありますので、秋を目処にパブリックコメントを行い、こういう子たちを育てられる街になるということを示していきたいと思っております。

本日いただいたご意見をもとに練ったものができれば、またご意見もいただ

きたいですし、いただいたご意見を反映しながら進めていきたいと思っております。では最後に、次回の予定を庶務課長から説明します。

○高橋庶務課長

今回は3月に開催を予定させていただいております。

区民意識調査の内容、進捗状況といったものを確認していただくというものととも到来年度の教育に関する重点施策について協議をしていきたいと考えてございます。よろしくお願いいたします。

○高際区長

最後に教育長から。

○金子教育長

色々なご意見をいただきありがとうございました。タウンミーティングはもちろん、今後実施する意識調査をふまえると、様々な観点と立場から意見をいただけるので、豊かなプランになるなというワクワク感があります。

ご指摘通り、アンケートに答えているうちに自己肯定感が高まるのがいいですね。そういうものにしていきたいと思っておりますし、とにかく子どもたちが喜ぶようなことを、一つでも多く作っていきたいと考えています。これからも知恵をお借りしたいと思っております。ありがとうございました。

○高際区長

3月は教育の重点目標についてです。よろしくお願いいたします。

本日はお忙しい中ありがとうございました。